

令和7年度 中学生 税に関する作文

～公益社団法人宇和島法人会長賞 受賞作品～

松野町立松野中学校 3年 中尾 花実 さん

「税金をもっと信じられる社会に」

私は「税」という言葉を聞いた時に、正直あまり良い印象を受けませんでした。税についてもなんとなくしか知らない状態で、ニュースやネット上でも「増税」「税金の使い道の不透明さ」「不公平感」という話題でよく取り上げられているのを見かけるからです。税について何も分からない身からしても、決して明るい内容ではなく、どちらかという国民から嫌われているイメージなのは分かります。そこで、何が原因となってここまで大きな問題になっているのか調べました。

まず、税にはたくさんの種類がありそれに伴い、国民からも多くの不満があることが分かりました。その中で私が特に気になった問題は、若者世代に負担が集中していることです。少子高齢化の影響もあり、高齢者へ年金や医療費にお金がかかりすぎてしまい、若者世代の税金が増えてしまっています。働いて高齢者を支える実からすると、「高齢者ばかり優遇されている」「子育ての余裕がない」と自分で努力して稼いでも高齢者のためのカバーにより支出が大きすぎるため将来に夢が持てないという意見が多くありました。私はこの若者の意見を知りとても共感しました。確かにこれからの日本を支えるのは若い世代です。若い世代の生活こそ、余裕を持つべきだと思います。年金制度のバランスが取れていなかったり医療費の自己負担割合が高齢者のみ軽くなるのは不公平で見直す必要があります。また、若い世代へ支援を増やすと共に、働き方改革も、もっと日本に浸透して労働者にとって働きやすい環境が広がってほしいです。もう一つ、私が気になったのは税金の使い道が不透明だということです。国民が負担する税金が「政治家の会費や不要な事業に使われている」という記事を見ると、本当に必要なことに使われているのか不安になります。自分たちが納めた税金が、どこに使われているのかが分からなければ、「払いたくない」という人が出てくるのも自然だと思いました。日本を変えていく上の立場にいる政府が税金の使い道を曖昧にするのは、責任感に欠けていて不信感は当たり前にも生まれます。誰でもわかるように税金の行き着く場所を明確にして、社会全体の信頼を取り戻す努力が必要だと思います。

以上のことから、様々な問題と国民が税金に関わっていて、これからの日本は多世代が生きやすい未来を作り上げることが税問題を改善する第一歩だと思います。